



法学部独自の奨学金制度  
「やる気応援奨学金」を利用した  
学生の体験をご紹介します

アウシュビッツの歴史を学ぶ  
ために、ポーランド、ドイツへ

2019年8月、私は「やる気応援奨学金」をいただき、ポーランドとドイツに滞在しました。その目的は、日本の学生にアウシュビッツの歴史を広め、今ある社会問題について考えてもらう場をつくるためです。私は約2週間、アウシュビッツ収容所博物館をはじめとするポーランド、ドイツにある複数の博物館などを訪ね、歴史を学習するとともに、教育文化の比較を行いました。

アウシュビッツ収容所博物館での学び

今回の活動のメインは、アウシュビッツ収容所博物館を訪ね、日本語が



アウシュビッツ収容所博物館。収容者が履いていた靴など、私物が展示されている

イドを務める中谷剛さんのガイドを実際に聞き、インタビューを行うことでした。約4時間のガイドでしたが、「『ARBEIT MACHT FREI（働けば自由になる）』と掲げている入り口の門をくぐると、まるで1945年から時間が止まっているかのような世界が広がっていました。書籍やインターネットを通してではなく、実際に自分の目で見て、聞いて、感じるのがいかに重要なことかを実感しました。ガイドの中

谷さんは、収容所博物館の説明だけで



世界遺産でもあるポーランド古都クラクフにて

なく、現在の世界情勢や各国での問題を例に挙げて話を進めてくださいました。「どうして世界遺産として残っているのか」「良し悪しではなく、少数派・多数派で決まる世界で良いのか」など、考えさせられるテーマが多々ありました。

また、ガイド後のインタビューでは、1時間ほど中谷さんとお話する機会をいただきました。そこでは、博物館についての細かな情報や、中谷さん自身の想いを聞くことができましたが、そのなかで最も印象に残る言葉がありました。

「過去の歴史を学ぶだけでなく、そこから現代の課題について考えてほしい。そのためにアウシュビッツは残されている」

しかし、渡航前に行ったアンケート

アウシュビッツの歴史を学びに東欧へ

関穂乃佳

法学部国際企業関係法学科2年  
私立札幌第一高校(北海道)出身

調査によると、今の日本の学生、特に小中学生はアウシュビッツについて聞いたことがないと答える人が多くいます。さらに日本では、先生の話を聞くだけといった受け身の授業がほとんどであり、児童や生徒が主体となって議論する時間が極めて少ない状況です。中谷さんの言葉には、今のこの現状を変えたいという想いが込められていると感じました。

ゲストハウスでの滞在

ポーランドとドイツでは、2週間ゲストハウスに滞在し、さまざまな国籍を持つ方々と交流することができました。そのなかで、ナチス・ホロコーストについて議論したり、出身国での学校の授業や教育について聞いたたりすることができ、ホテルに滞在するよりも



アウシュビッツ博物館ガイドの中谷剛さんと

有意義な時間を過ごすことができました。仲良くなったスペインの方とは、一緒にユダヤ人街に足を運び、いくつかのフリーツアーに参加しました。今回は語学の習得が目的ではありませんでしたが、2週間で日常会話はもちろんのこと、自分の考えを英語で話すという語学の勉強にもなりました。

## 今後の活動：ワークショップの展開に向けて

今回は、語学学習が目的ではなく、帰国後に日本国内で若者を対象としたワークショップを開くための活動でし

From the Faculty of Law



法学部だより



## 情報収集の大切さ

法学部事務室  
こばやし くん べい  
小林 薫平

学生から相談を受けているときに、「もう少し早く知っていれば……」といった心の声が聞こえてくることがあります。何か新しいことを始めたいとき、単位数や履修に関して不安があるときは、その悩みを解決するために適切な情報を得る必要があります。今回は、大学での情報収集についてお話しさせていただきます。

法学部事務室から学生へ情報を発信する手段は大きく3つあり、①中央大学ポータルサイトC plus、②全学メール、③学生掲示板を通じて学生へ発信しています。そのなかでも①のC plusには情報が一番多く掲載されており、履修登録や留学、奨学金の申請などさまざまな活動

に使用されます。そのため、毎日C plusを確認する習慣をつけることは非常に重要であり、大学生活において避けて通ることはできません。②の全学メールは中央大学が付与するGmailアドレスで、大学からの連絡はこの全学メール宛てに送られます。メールを見落としてしまうと、最悪の場合は留年や除籍といったことにもなりかねませんので、こちらも毎日確認するようにしてください。③の学生掲示板には、外部からのお知らせを中心に、学内外でのセミナーやシンポジウム、インターシップなどに関する情報がたくさん掲載されています。この3つを押さえておけば、まずつまづくことはないと思います。

しかし、日々多くの情報が発信されているがゆえに、その取捨選択は非常に難しく、かえって混乱してしまうこともあると思います。そんなときは法学部事務室や関係部課室に足を運んでいただければ、適切な情報をご提供できると思います。せっかくの大学生活、有益な情報をしっかりつかんで、より充実したものにしていだければと思います。

た。私は、現在「ローターアクトクラブ」という世界規模の奉仕団体に所属しており、今後の活動については、同じローターアクトクラブに所属する仲間と行っていくことにしました。

ワークショップの内容としては、参加者にアウシュビッツの歴史を学習してもらったうえで、その後に難民問題やパレスチナ問題、途上国の女性差別、LGBTなど、考えていくべき現代の問題についてテーマを決め、グループ

に分かれてディスカッションを行い、最後にグループごとに発表するというものです。この内容は、私がポーランドやドイツで経験した中谷さんのインタビューや、そのほか多くの体験を参考に決めてきました。

実際には、2019年12月に一度ローターアクトクラブでイベントを開催しており、今後は改善を施しながら、多摩・八王子近郊でワークショップを展開していく予定です。

この活動が、日本の若者にアウシュビッツを知ってもらう機会をつくり、さまざまな問題に対して主体となつて取り組む若者を増やすことにつながってほしいと思います。